

【SSH海外研修〔12月18日(月)～26日(火)〕】

今年度、4年ぶりに海外研修を再開し、科学部4名(1・2年生)がタイを訪問しました。中心となった活動は、タイ王国から招待を受けて参加した「タイ・日本学生サイエンスフェア(TJSSF)」です。12月20日(水)～22日(金)の3日間、ラオスと国境を分けるメコン川沿いのタイ東北部ルーイ県チェンカーンにある「プリンセスチュラポーン科学高校(PCSHS)」のルーイ校を会場として開催され、日本からは18の高校と13の高専が参加し、多くのタイの高校生と交流しました。

〔12月18日(月)〕

5:30 発の高速バスで長崎駅前を出発、8:50 に福岡空港に到着、10:00 発の航空機に搭乗し、約5時間半の空旅の後、現地時刻(日本から-2時間)15:30 にバンコクのドンムアン空港に到着しました。入国後、現地添乗員の案内で最初の研修地である「クロントーイ市場」に向かいました。最大の目的であった食用昆虫は休業日であり見られませんでした。日本では見かけない生鮮食品も多く取り扱われ、地元民と密着した活力のある流通の現場を体感すると同時に、熱帯について学ぶ今回の研修に向けて期待が高まる体験となりました。

〔12月19日(火)〕

ドンムアン空港発 11:15 の便に乗り、12:30 にルーイ空港に到着しました。そこで本校のパートナー校であるPCSHSチェンライ校の先生方の出迎えを受け、15:00 にはTJSSFの会場であるPCSHSルーイ校に到着し、同校の生徒達の大歓迎を受けました。この日からの4泊は、この学校の学生寮での宿泊となります。まずは、発表へ向けての準備をし、その後、メコン川沿いの「チェンカーンウォーキングストリート」へ移動し、パートナー校の生徒達と英語で交流を深めました。

〔12月20日(水)〕

TJSSF初日は、シリントン王女を迎えての開会式で始まりました。15:00 からは、参加生徒が体育館に集まり、サイエンスプロジェクトのポスタープレゼンテーションが実施され、本校は“Component Analysis of Bee Pollen Pellets Collected by Japanese Honeybees”(「ニホンミツバチによる花粉荷の成分分析」)を発表しました。聞きに来てくれたタイ人の高校生や先生に向けて、英語で一生懸命説明し、うまく通じたり、興味を示してくれたりしたときには嬉しそうにしていました。18:00 からの歓迎会では、タイの音楽や舞踊などの伝統文化を満喫しました。

〔12月21日(木)〕

TJSSF2日目は、参加生徒によるパワーポイントを使ってのサイエンスプロジェクトの発表です。本校の出番は午後の最後だったので、それまでは他の発表を視聴したり、練習を重ねたりして待ちました。15:00 からいよいよ本校生徒の登場です。今回の海外研修でのメインイベントかつハイライトとして、約15名を前に緊張と不安が入り混じる中で、自分達がこれまで取り組んできた課題研究について英語で堂々と発表し、事前の準備や練習の成果をしっかりと発揮することができました。その後も「サイエンスアクティビティ」「天体観察」と続き、まさに「サイエンス」づくしの一日でした。

〔12月22日(金)〕

TJSSF最終日は、フィールドトリップ4コースが設定され、本校の3名は「淡水漁業研究開発センター」を選択し、メコン川の淡水魚の種の保存や水質分析についての実験に取り組みました。もう1名は「タンタム農場」を訪問し、有機農業について体験を通して学びました。午後にはPCSHSルーイ校に戻り、数班に分かれ、フィールドトリップで学んだことを発表するために英語で意見交換をしながら準備を進めました。和装(本校の法被)をまとって参加した送別会では、タイの高校生による伝統舞踊などが次々と披露され、初日の歓迎会同様の盛

り上がりを見せました。この4日間の滞在を通して、タイ人高校生と交流しながら、科学英語を海外で発信するという貴重な体験をすることができました。

〔12月23日(土)〕

4日間お世話をしてくれたタイ人高校生達から見送りを受け、名残惜しい気持ちでPCSHSルーイ校を9:00に出発し、ルーイ空港に向かいました。13:50にはドンムアン空港に到着し、再び現地添乗員の案内で「ワチラベンチャタット公園」を訪れました。バンコクという巨大都市の中にあるこの自然豊かな公園で、熱帯のチョウ、リス、トカゲに出会い、その行動を観察することができました。

〔12月24日(日)〕

この日は3つの施設を訪問しました。最初は広大な果樹園である「スパットラランド」です。ここでは多品種の熱帯果樹・果実を観察したり、触れたり、試食しながら、その植生、栽培、流通について学びました。午前中の早い時間だったので、まだ他の入場者がおらず、トラムを独占してじっくりと園内を巡ることができました。次に「パタヤエレファントビレッジ」を訪れました。熱帯動物で絶滅危惧種のゾウが飼育・保護され、人間との共存・交流に取り組んでいるこの施設で、ゾウにまたがり、餌を与えたり、体を洗ったりという貴重な体験をすることができました。ゾウの行動を体感すると同時に、動物保護・福祉についても考える機会となりました。最後は養蜂園「ビッグビーファーム」です。研修参加生徒の研究テーマがミツバチ関連であるため、この施設を選びました。熱帯養蜂と自分達の研究を比較しながら、蜂蜜、ロイヤルゼリー、プロポリス、花粉荷の実物を観察することができました。3つの施設で、日本とは違う熱帯の様々な学習資源に触れ、科学への視野が広がる一日となりました。

〔12月25日(月)〕

いよいよタイでの最終日です。まず「タキアンティアコミュニティ」を訪れ、緑豊かな農園の中で、万能作物であるココナッツの多様な用途についての説明を聞きました。果汁を試飲したり、実際に加工するなどの体験を通して、ココナッツが幅広く活用されていることが理解できました。最後の訪問施設は、マングローブ林に隣接した「バンプー自然学習センター」です。担当者から講習を受け、マングローブの重要性や海洋ゴミによる危機について学びました。干潟に生息するハゼやカニを探したり、シベリアから飛来しているカモメの群れに近づいたりなど、沿岸生態系を観察することもできました。ドンムアン空港へ向かう途中で立ち寄った「ジョッドフェアズ」では、初日の市場で逃した食用昆虫や7日目の果樹園で見られなかったドリアンの実に出会うことができ、ぎりぎりまでタイや熱帯について学ぶ機会が得られました。そして、多くの研修成果と思い出を胸に、深夜便でバンコクを飛び立ちました。

(写真を後日アップします。)